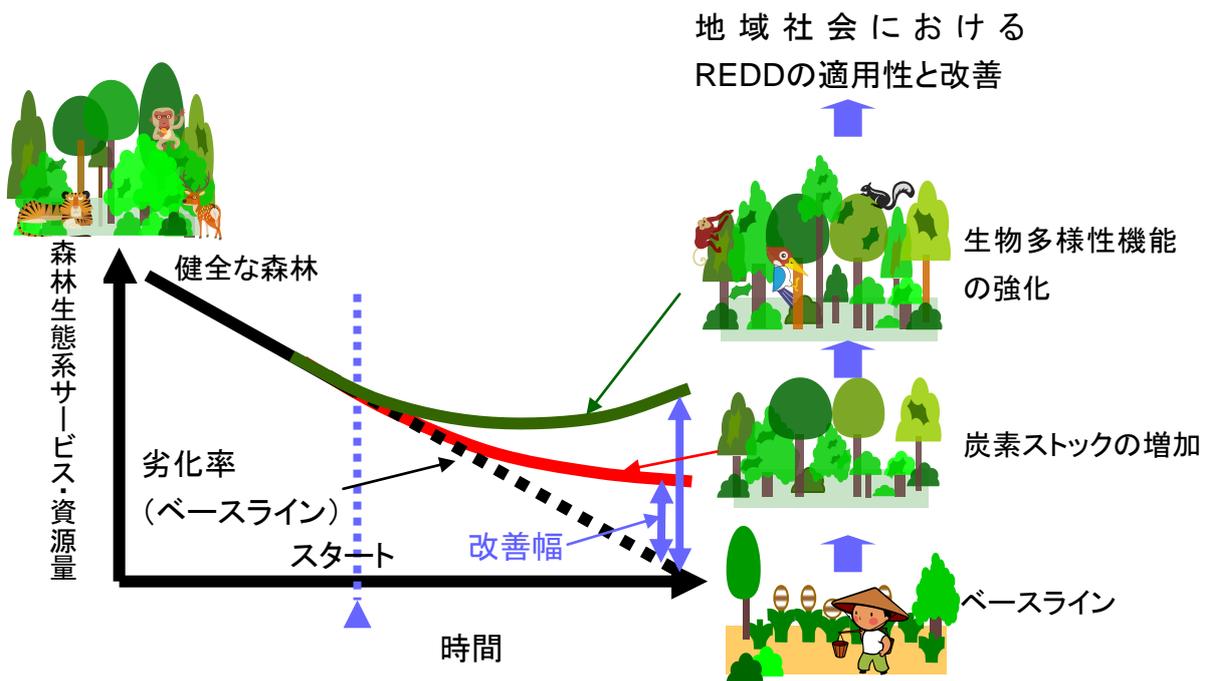
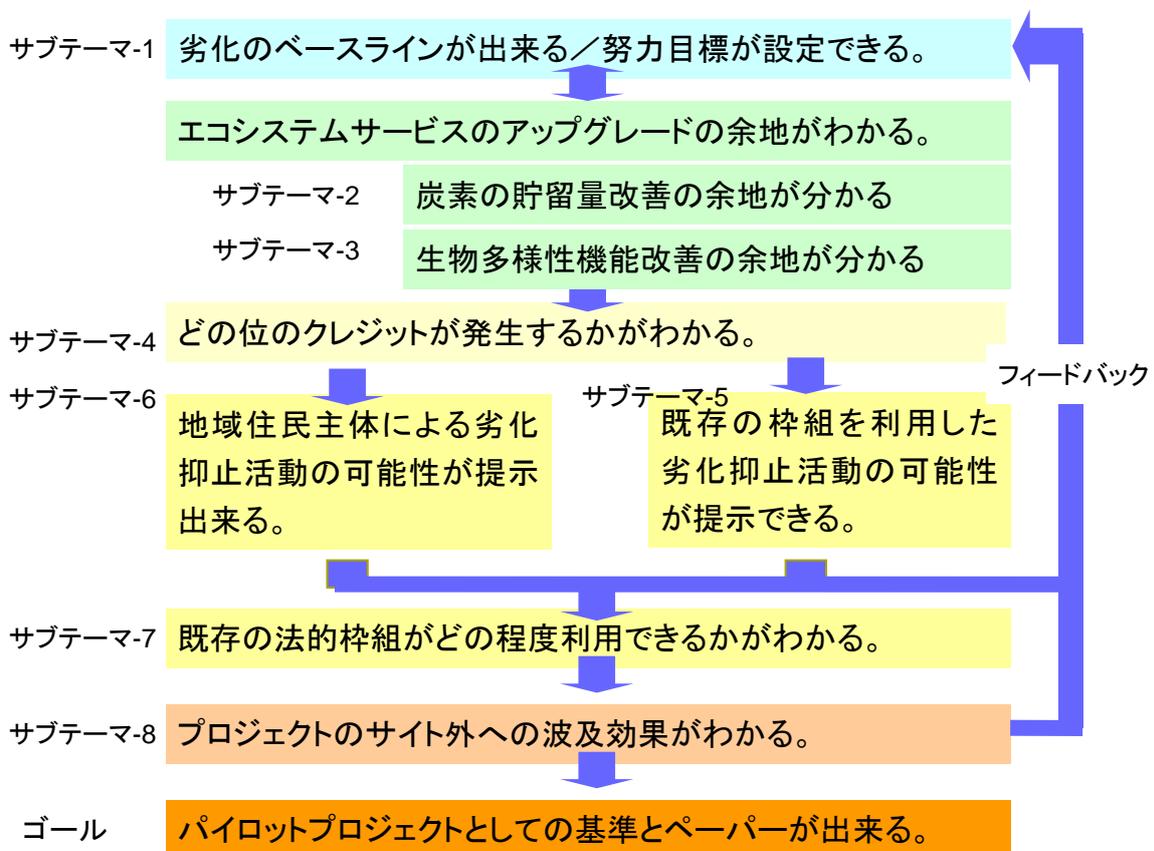


〈研究課題名〉	D-1005		生態系サービスからみた森林劣化抑止プログラム (REDD) の改良提案とその実証研究	
<p>〈研究概要〉</p> <p>本研究では森林劣化抑止プログラム (REDD) に「生態系サービスの向上」を取り入れた新たな枠組(改良型劣化抑止プログラム)を構築し世界に発信することを目標として、1)生態系サービス評価による劣化抑止プログラムの向上化(アップグレード化)のための手法開発、2)地域社会・住民による劣化抑止プログラムへの参加のためのインセンティブ導入方法の探索と問題点抽出、3)地域社会への利益還元のための社会的支援、法的枠組のあり方の検証を行う。この目的に沿って以下のサブテーマを実施する。</p> <p>(1) 持続的森林経営評価による劣化抑止プログラムの改良策とその実現性に関する研究            認証制度などによるReduced Impact Logging (低インパクト森林伐採RIL)導入箇所と従来型の森林経営や収斂的伐採を行っている場所との資源量、更新状況などの比較を行い、潜在的な劣化抑制効果の定量評価を行う。また伐採後の自然更新に及ぼす影響をシミュレーションプログラムによって分析し、伐採強度の低減を行うことで森林資源量の減衰がどの程度抑制可能かを分析する。</p> <p>(2) 炭素ストックの強化による劣化抑止プログラムの改良策とその実現性に関する研究            改良型劣化抑止プログラムにより森林の炭素貯留量および放出量(木材資源以外の樹木資源も含めた森林の地上部・地下部の炭素貯留量、地下部からの温室効果ガス発生量、森林伐採後の木材残渣からの炭素発生量など)が、どの程度改善可能かについて調査を行う。</p> <p>(3) 森林の生物多様性評価による劣化抑止プログラムの改良策とその実現性に関する研究            持続的森林経営手法(RILなど)により森林の生物多様性保全機能の劣化がどの程度低減できるかを検証する。生物多様性を広域に評価するために、野生生物などの種構成や多様性と強い関連性を示す項目(林冠の三次元構造、水平的な構造および林分パッチの連結性)を指標として用い森林劣化の状況を評価する。</p> <p>(4) 劣化抑止プログラムによる経済効果の分析およびクレジットの市場取引の可能性に関する検証            改良型劣化抑止プログラム導入によるコストと利潤とのバランスを分析する。さらにサブテーマ1～3で調査するREDDの改善項目(持続的森林経営、炭素ストックの強化、生態系サービスの強化など)によって得られるクレジットが市場で取引されることを想定して、表明選考法(CVMなど)を用いて、それぞれの改善項目の経済的効果(付加価値)を調べる。また、途上国と投資国とのあいだでの支払い意思額(クレジットに対する投資額)の違いについても調査を行う。</p> <p>(5) 劣化抑止プログラムの導入にあたってのゾーニングとガバナンスに関する研究            森林の劣化抑止効果を上げるために、プロジェクトサイトの中の保護区の設定やゾーニング(森林配置)の状況がどうあるべきか、また保護区の設定基準が劣化抑止の基準と提案(サブテーマ1～3の結果など)に対してどのように利用可能なかについて検証を行う。</p> <p>(6) 劣化抑止プログラムの導入による地域社会への影響評価と住民参加のためのインセンティブ導入方法に関する研究            劣化抑止プログラムが地域社会に許容されるためにはどの程度の改良が必要かを明らかにするために、地域住民による改良型劣化抑止プログラムへの参加条件、地域社会・住民へのクレジットの再配分方法についての意識調査を行う。</p> <p>(7) 劣化抑止プログラムと国際・国内現行法との整合性および問題点の検証            調査対象地の国内法(森林法など)と照らし合わせ、改良型劣化抑止プログラムの導入にどのような法的根拠を見いだすことが可能か、また運用面での解釈のあり方などについて妥当性と問題点を検証する。資源管理、森林保全(多様性も含む)からみた現行法の妥当性・運用強化に関して分析を行う。            地域住民・社会による森林資源に関わる慣習法と改良型劣化抑止プログラムにかかわる活動がどのようにかみ合うのかまたパッチングするのか、現地での聞き取り調査も行いながら分析する。生態系保全に関して生物多様性条約および関連国際条約により求められている措置および行動との整合性の分析および効果的かつ積極的な国内実施の検討を行う。</p> <p>(8) エコシステムアプローチからみた森林劣化抑止プログラムの検証            改良型劣化抑止プログラムの導入によってプロジェクト域外もふくめた生態系や地域住民・社会にどのような影響を及ぼすか(メリット、デメリット)について調査する。国内法や慣習法の運用面の視点から調査対象地内(流域)での正の効果と負の影響などをどのように調整し、相利共益の関係が築けるかについて検証を行う。</p>				
〈研究代表者〉		奥田敏統		広島大学大学院総合科学研究科
No.	サブテーマ名	氏名	所属機関名・部局・役職名	
(1)	持続的森林経営評価による劣化抑止プログラムの改良策とその実現性に関する研究	○ 鈴木英治	鹿児島大学・大学院理工学研究科・教授	
		米田健	鹿児島大学・農学部・教授	
(2)	炭素ストックの強化による劣化抑止プログラムの改良策とその実現性に関する研究	○ 梁乃申	(独) 国立環境研究所・地球環境研究センター・主任研究員	
		小熊宏之	(独) 国立環境研究所・環境計測技術研究センター・主任研究員	
(3)	森林の生物多様性評価による劣化抑止プログラムの改良策とその実現性に関する研究	◎ 奥田敏統	広島大学・大学院総合科学研究科・教授	
		山田俊弘	広島大学・大学院総合科学研究科・准教授	
(4)	劣化抑止プログラムによる経済効果の分析およびクレジットの市場取引の可能性に関する検証	○ 坂上雅治	日本福祉大学 健康科学部・准教授	
(5)	劣化抑止プログラムの導入にあたってのゾーニングとガバナンスに関する研究	○ 高橋進	共栄大学 教育学部・教授	
(6)	劣化抑止プログラムの導入による地域社会への影響評価と住民参加のためのインセンティブ導入方法に関する研究	○ 井上真	東京大学・大学院農学生命科学研究科・教授	
(7)	劣化抑止プログラムと国際・国内現行法との整合性および問題点の検証	○ 磯崎博司	上智大学・大学院地球環境学研究所・教授	
(8)	エコシステムアプローチからみた森林劣化抑止プログラムの検証	○ 古川 務	岩手大学・人文社会科学部・准教授	



[図-1] 研究の概念



[図-2.] サブテーマ間の関連性